

平成27年度 放射線健康相談内容集計データ

1. 調査期間

平成27年9月～平成28年3月

2. 相談件数（のべ件数）

区分	件数	備考
① 相談窓口	37件	※電話での問い合わせ対応含む
② 戸別訪問	830件	
③ 電話連絡	224件	
合計	1,091件	

3. 避難種別内訳（のべ件数）

区分	件数	備考
① 準備宿泊者	601件	※避難指示区域の解除前に自宅の修理・清掃等のため「準備宿泊者登録名簿」に登録し、夜間の自宅への宿泊が認められていた方
② 市内避難者	360件	※仮設住宅避難者
③ その他	130件	※自宅に戻られた方、匿名者など
合計	1,091件	

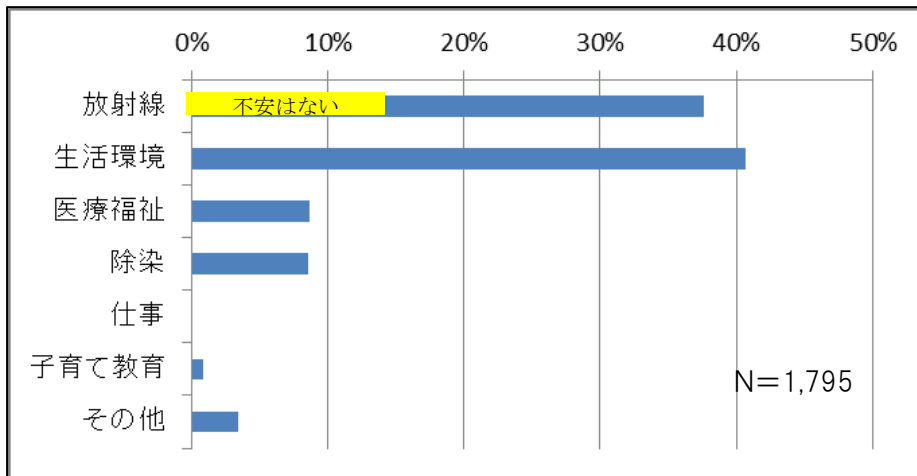
4. 相談内容（のべ件数）

項目	放射線	生活環境	医療福祉	除染	仕事	子育て教育	その他	合計
件数	676件	730件	156件	155件	0件	16件	62件	1,795件
割合	38%	41%	9%	9%	0%	1%	3%	100.0%

※1件につき複数相談があるため相談件数とは合わない。

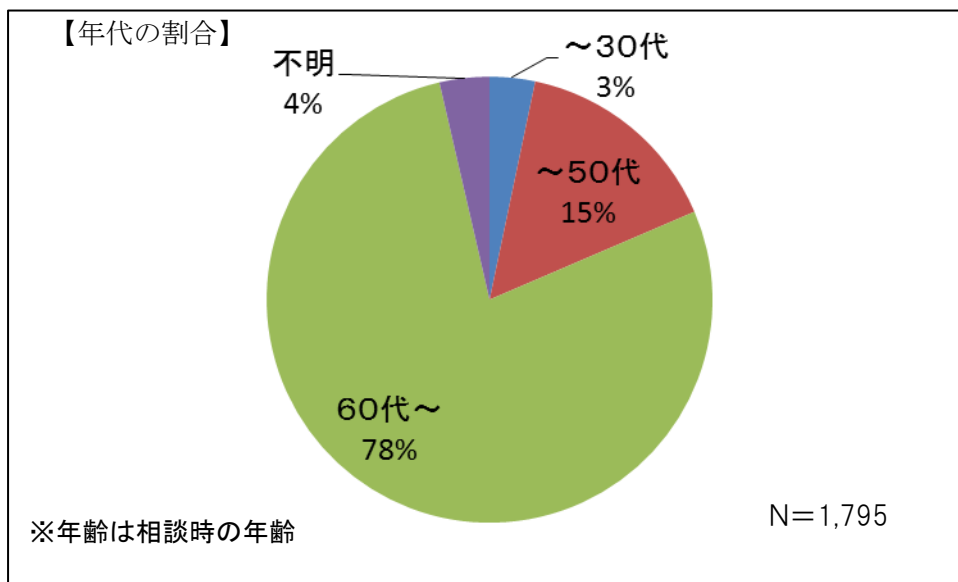
5-1. 相談内容の解析

5-1-① 全体の解析



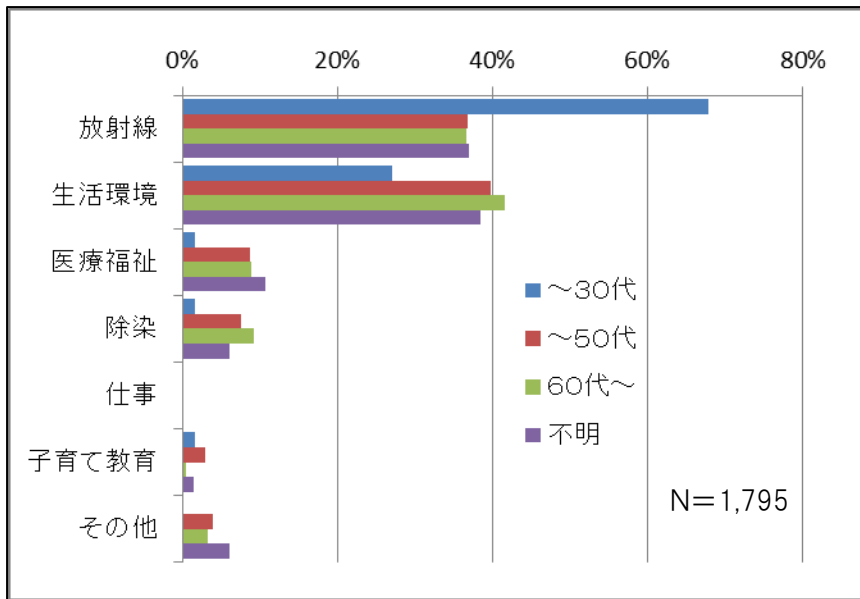
- 1) 生活環境に対する相談が一番多く、730件で全体の約41%であった。
- 2) 続いて、放射線に対する相談が676件で約38%であった。
※676件中205件は「不安はない」という回答

5-1-② 年代による解析



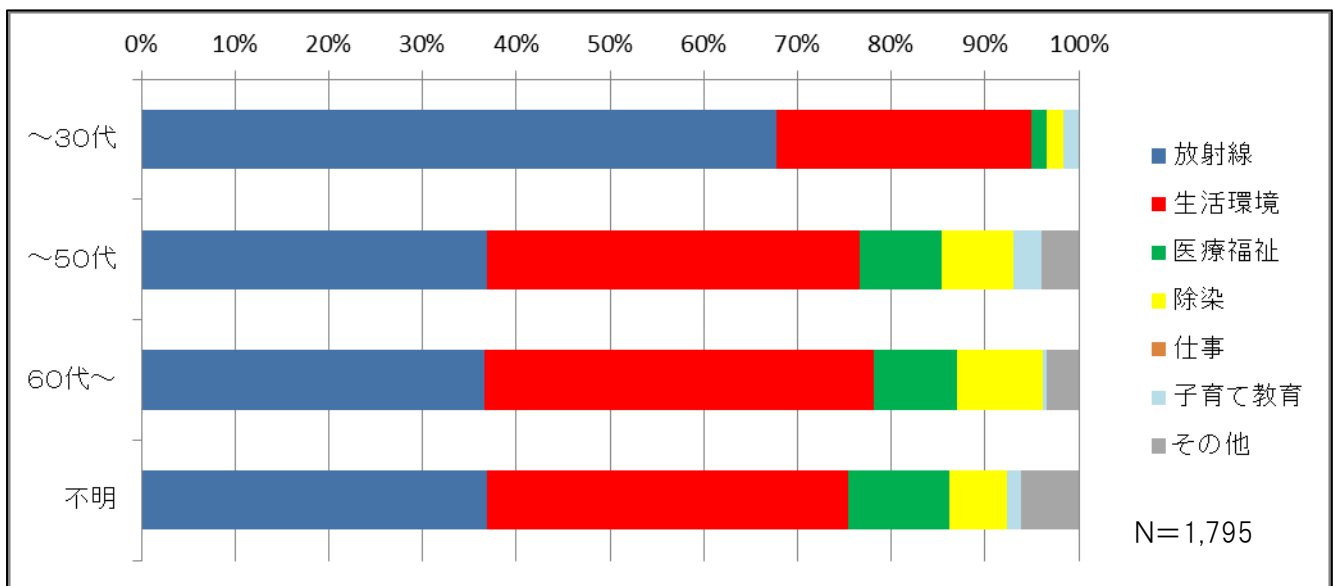
- 1) 相談内容における年代の割合をしてみると、60代以上が一番多く、全体の約78%を占めていた。

【年代毎の相談件数】



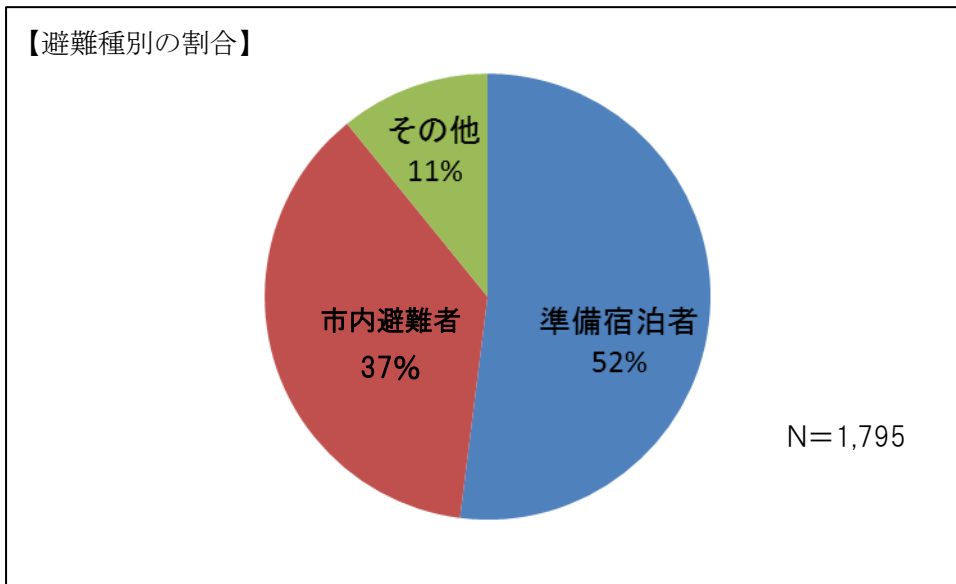
- 1) 年代が上がるにつれて、生活環境に対する相談の割合が増加した。
- 2) 医療福祉に対する相談の割合も、年代が上がるにつれて微増している。

【年代毎の相談内容の割合】

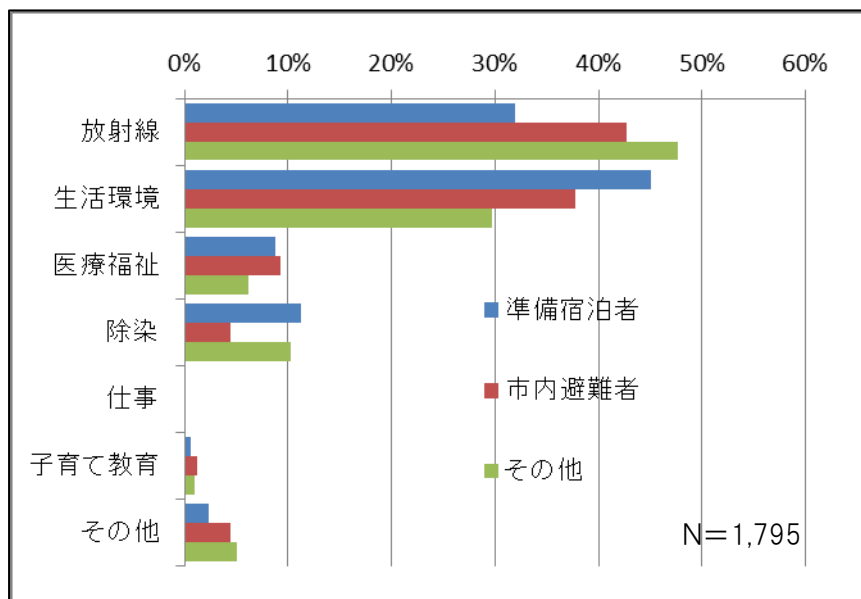


- 1) 30代以下を除いた全世代で、放射線に関する相談よりわずかに生活環境に関する相談の方が多かった。

5-1-③ 避難種別による解析

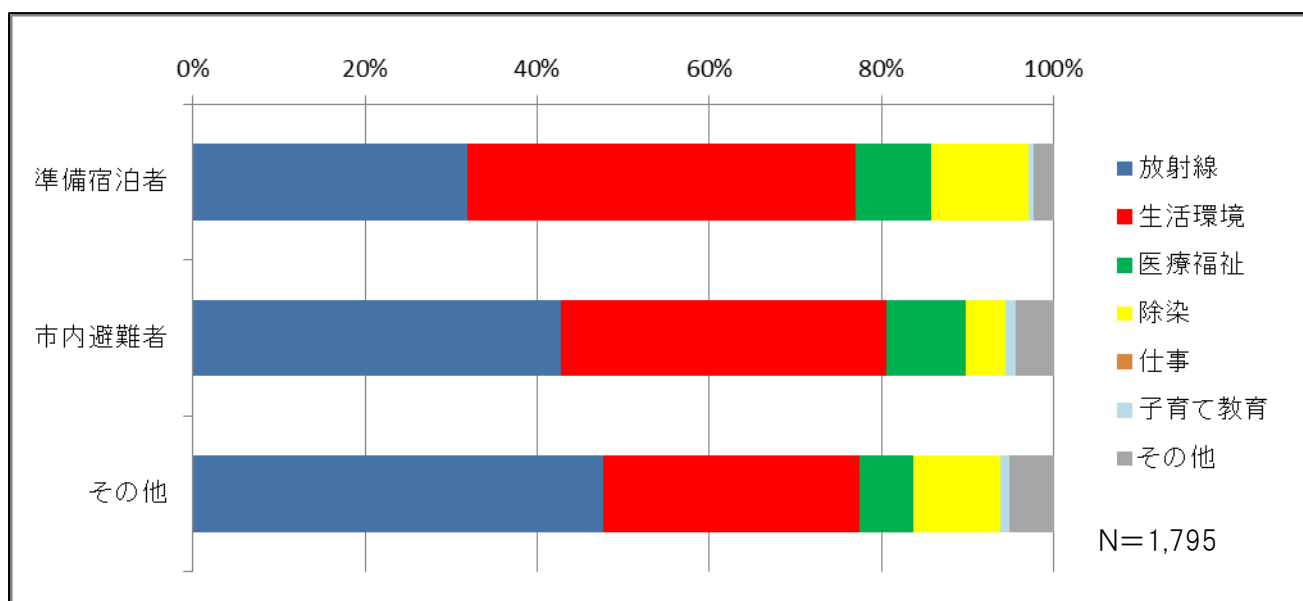


【避難種別毎の相談件数】



- 1) 生活環境上の困りごとは、準備宿泊者が一番多かった。これは、準備宿泊者が震災前と同等の生活環境が整っていないために困りごととして多く相談があったためと考えられる。

【避難種別毎の相談内容の割合】

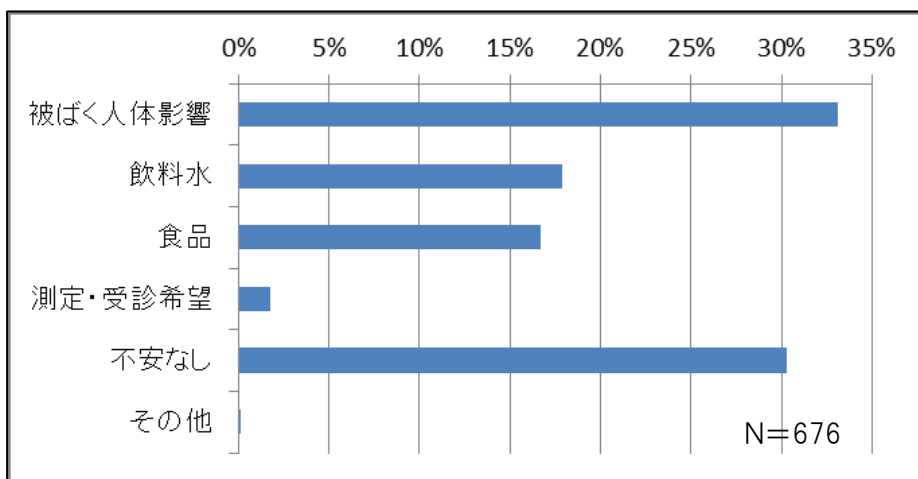


- 1) 準備宿泊者では、放射線に関する相談より生活環境に関する相談の方が多かった。

5-2. 放射線の相談に対する解析

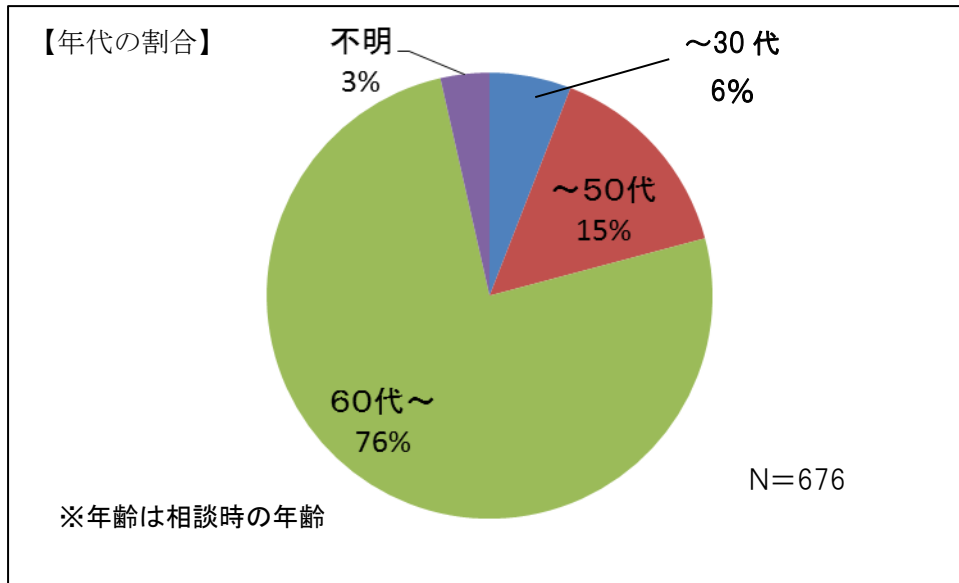
放射線に関する相談内容を細分化し解析した。

5-2-① 全体の解析（放射線）

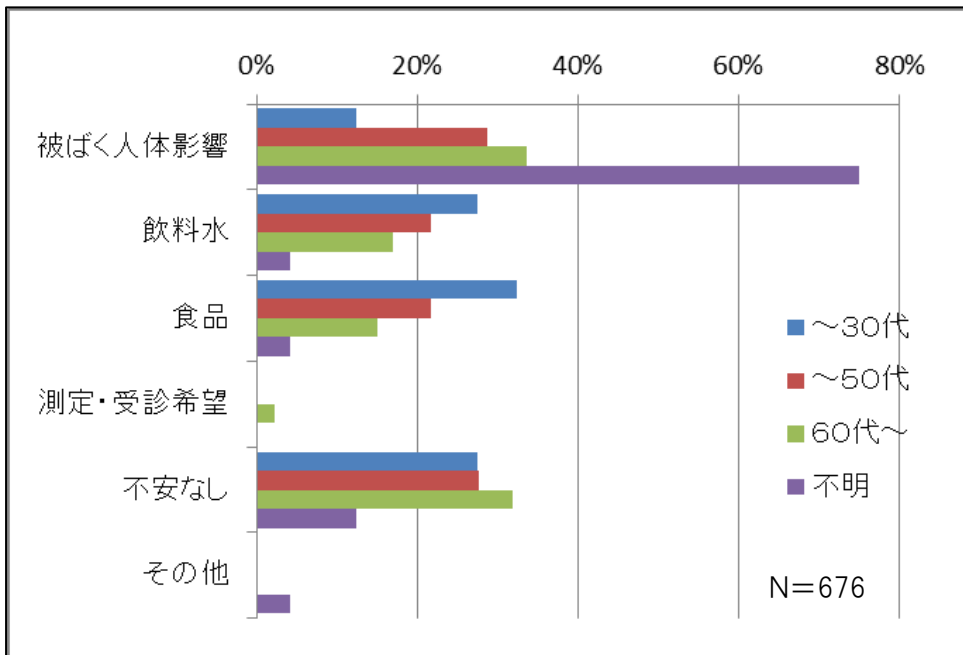


- 1) 放射線の不安に関しては、主に被ばくによる人体影響、飲料水、食品に関する相談であった。
- 2) 不安なしの割合も全体の約30%を占めている。

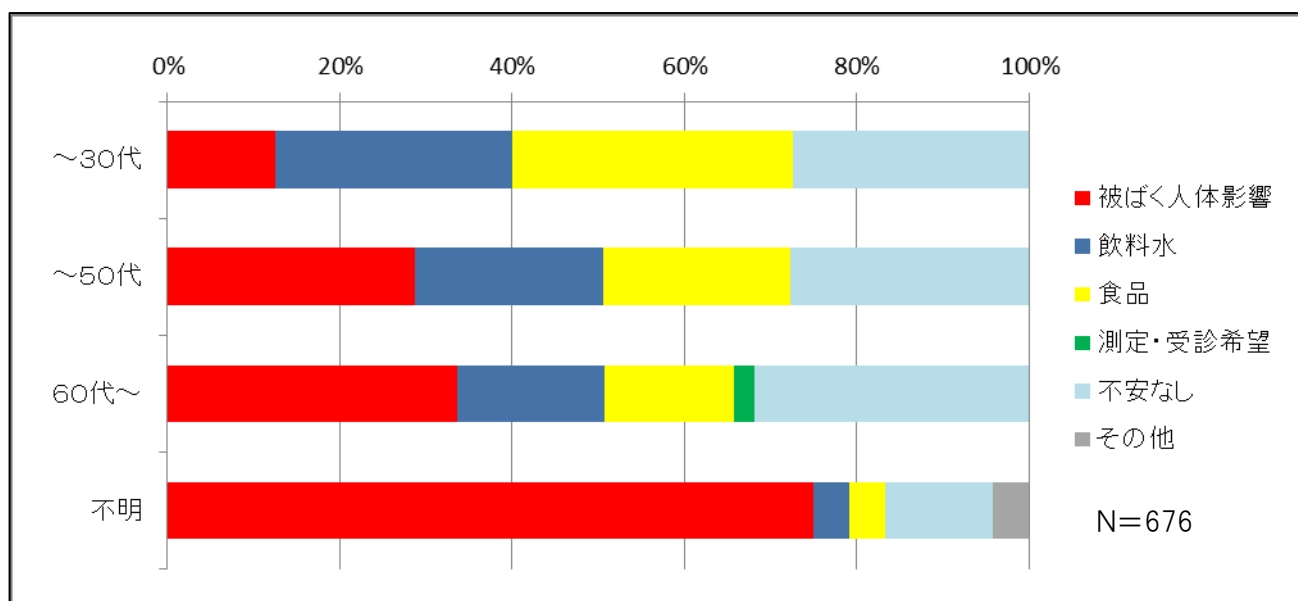
5-2-2 年代による解析（放射線）



【年代毎の相談件数】

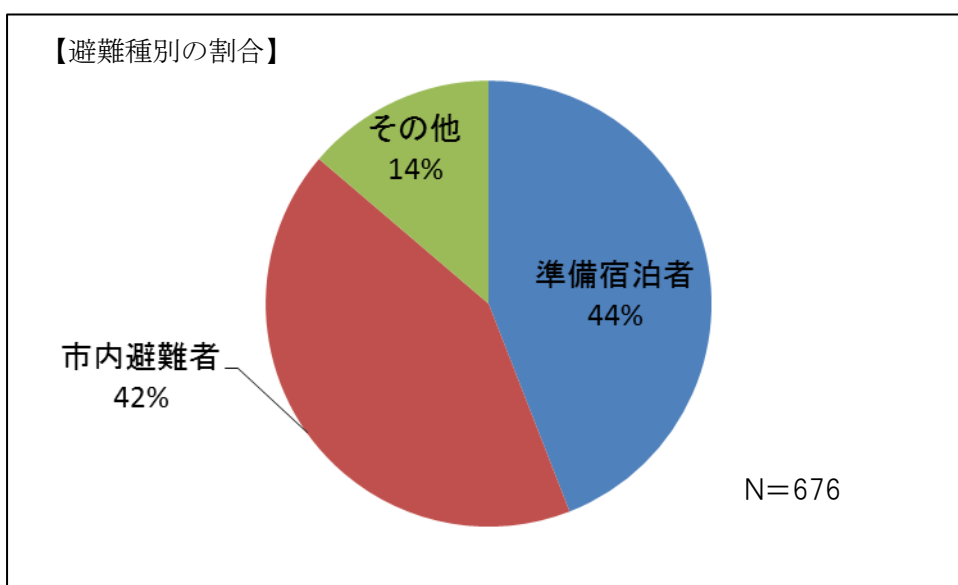


【年代毎の相談内容の割合】

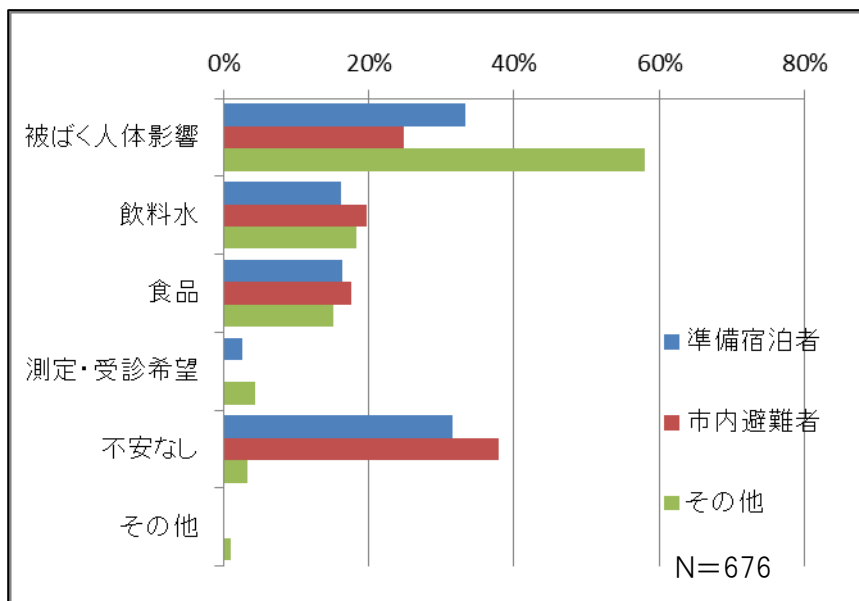


- 1) 50代までは、飲料水、食品に関して不安があると回答する方が多い傾向となった。
- 2) 60代以上では、他の年代と比べて被ばくの人体影響に関する不安が多いが、一方では放射線の不安なしと回答する方も多い傾向となった。

5-2-③ 避難種別による解析（放射線）

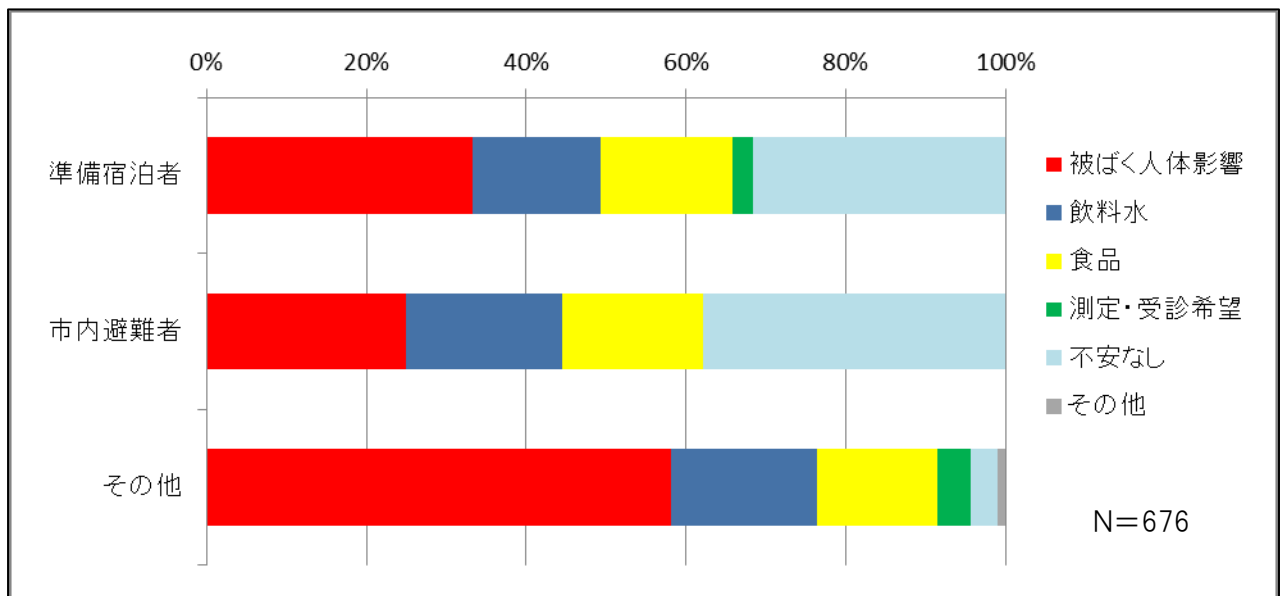


【避難種別毎の相談件数】



- 1) 飲料水に対する不安は、市内避難者が一番多かった。
- 2) 食品に対する不安も、市内避難者が一番多かった。

【避難種別毎の相談内容の割合】

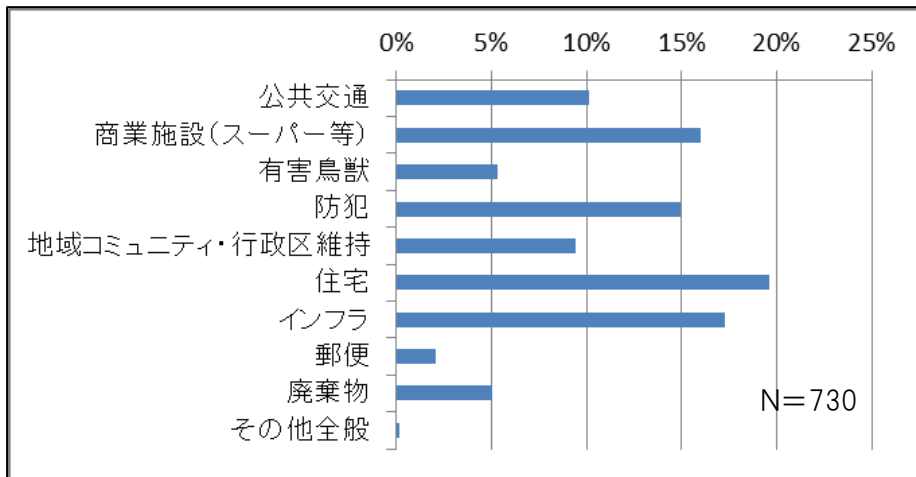


- 1) 準備宿泊者・市内避難者ともに、被ばくの人体影響への不安より、不安なしとする回答が多かった。

5-3. 生活環境の相談に対する解析

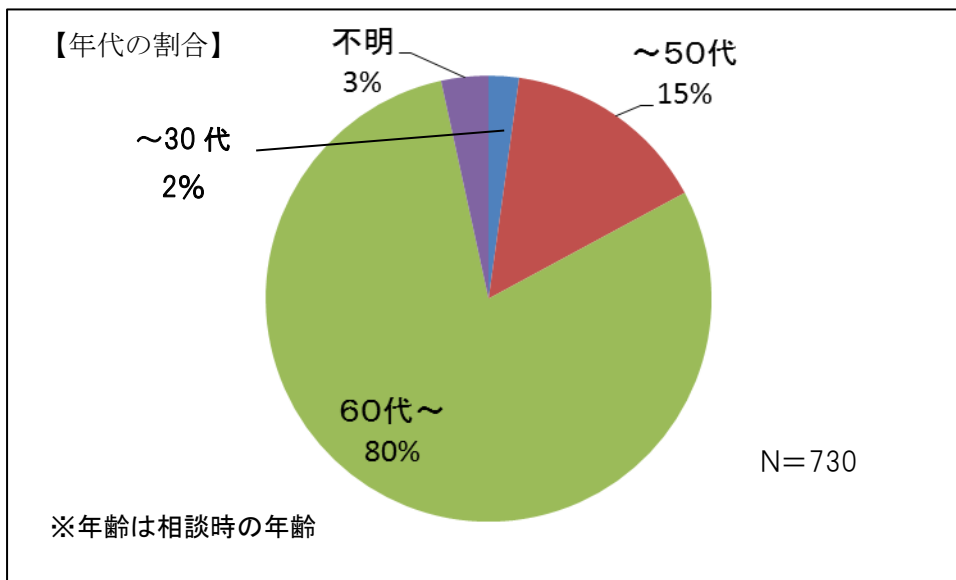
生活環境に関する相談内容を細分化し解析した。

5-3-① 全体の解析（生活環境）



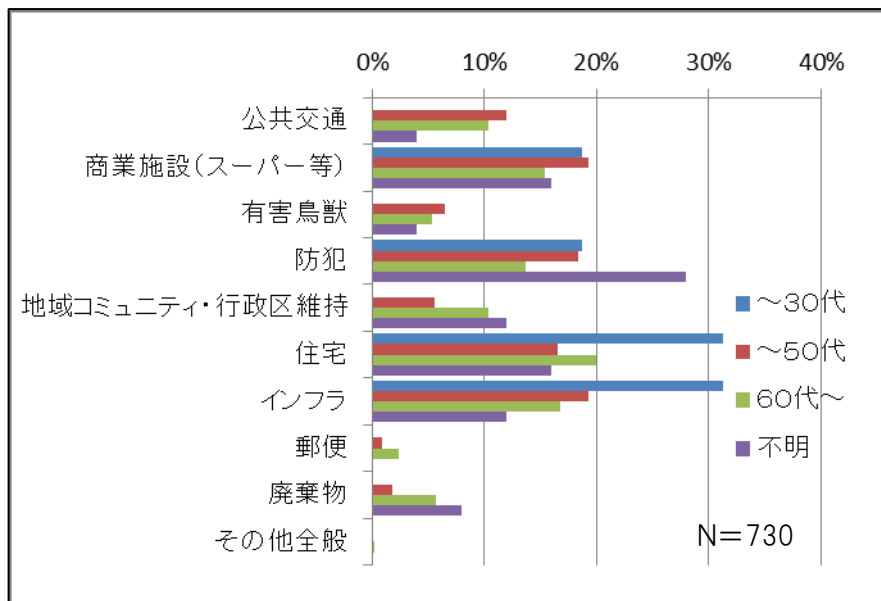
- 1) 住宅に関する相談が一番多く、約20%であった。
- 2) 続いて、インフラに関する相談が多く、約17%であった。

5-3-② 年代による解析（生活環境）

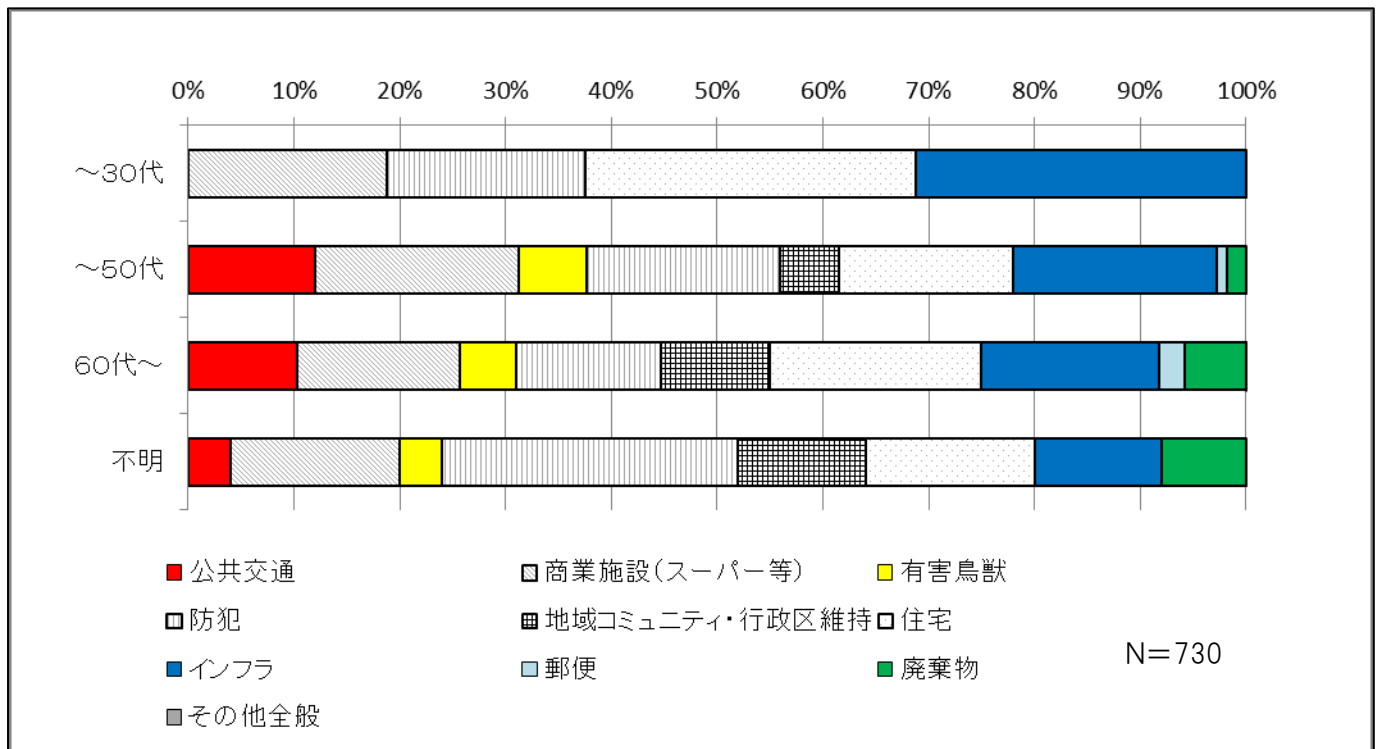


- 1) 生活環境に関する相談内容における年代の割合をしてみると、60代以上が一番多く、全体の約80%を占めていた。

【年代毎の相談件数】

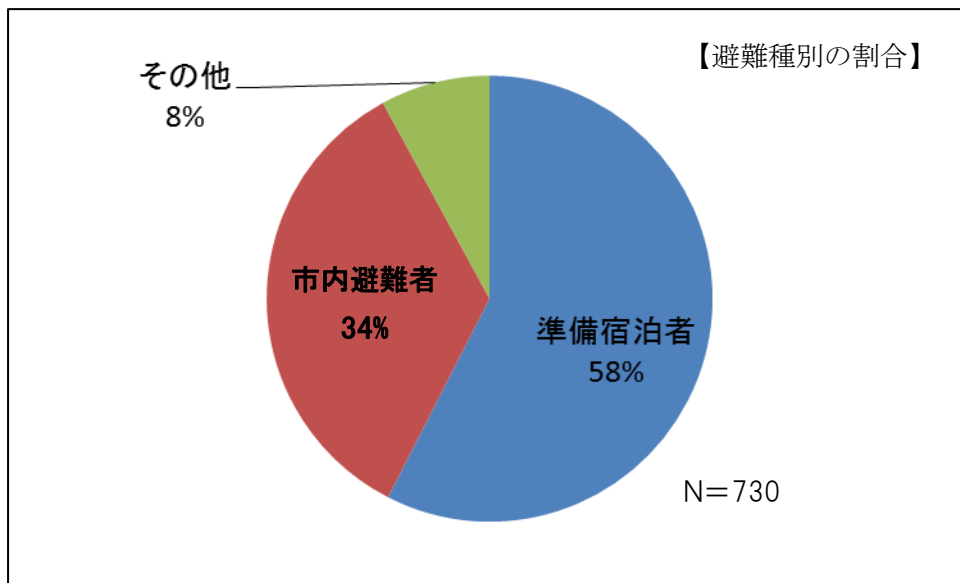


【年代毎の相談内容の割合】



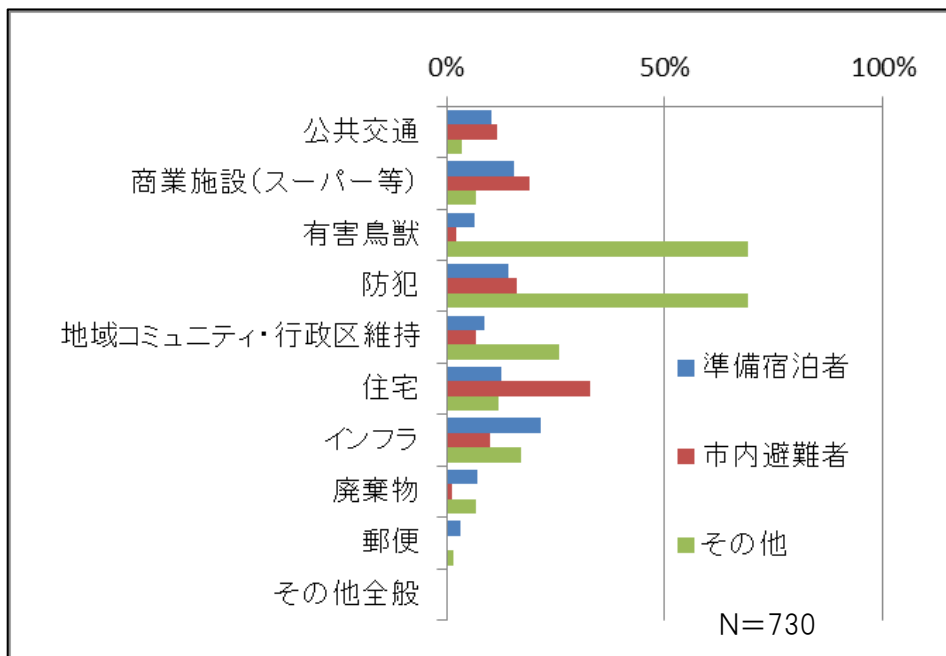
- 1) 防犯、インフラに関する相談の割合は、年代が上がるにつれて減少する傾向であった。
- 2) 地域コミュニティ・行政区維持、郵便、廃棄物に関する相談の割合は、年代が上がるにつれて増加する傾向であった。

5-3-③ 避難種別による解析（生活環境）

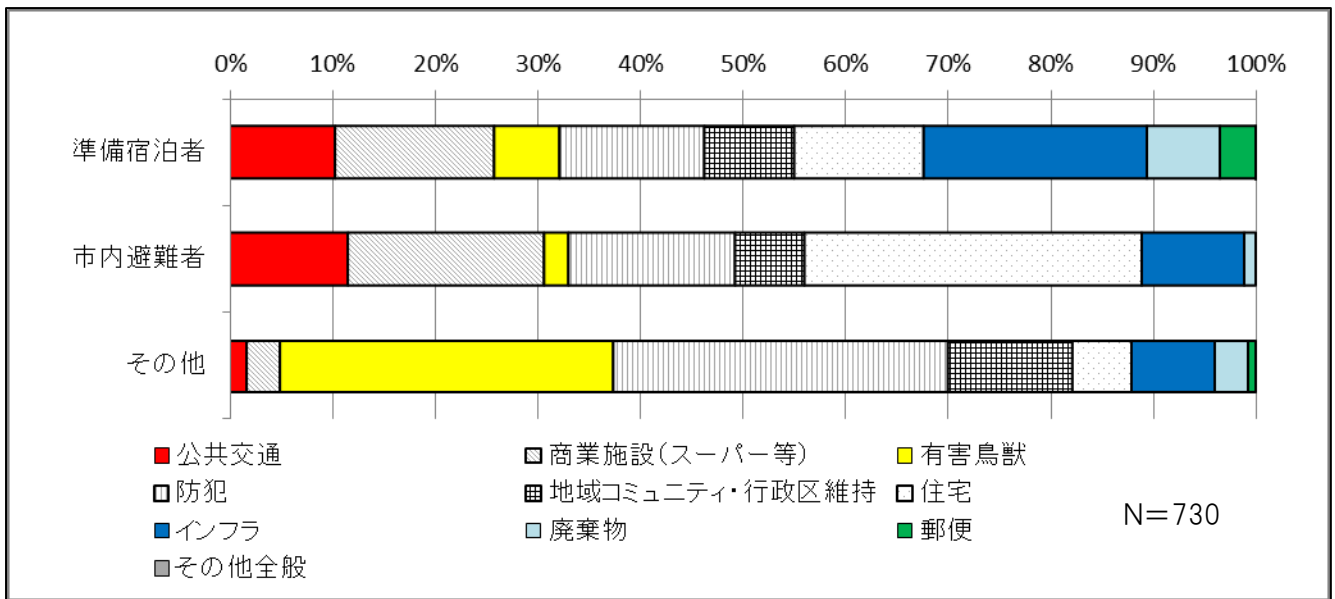


1) 生活環境に関する相談内容における避難種別の割合を見てみると、準備宿泊者が一番多く、全体の約58%であった。

【避難種別毎の相談件数】



【避難種別毎の相談内容の割合】



- 1) 準備宿泊者では、インフラ、商業施設に関する相談割合が多かった。
- 2) 市内避難者では、住宅に関する相談割合が多かった。